

～海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」～

第8回横浜ブルーカーボンシンポジウムを開催します！

— クレジット創出者、カーボン・オフセット実施者の取組紹介 —

横浜市では、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン^{※1}」に取り組んでいます。「横浜ブルーカーボン」では、海洋の海草・海藻等によって吸収・固定される炭素「ブルーカーボン^{※2}」と海洋におけるエネルギー等の利活用「ブルーリソース^{※3}」とを一体として温暖化対策を進めています。さらに、これらによる海辺環境の魅力の向上を「親しみやすい海づくり」として環境教育につなげています。また「ブルーリソース」、「ブルーカーボン」を活用した、本市独自のカーボン・オフセット制度^{※4}（「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」）を運用しています。

このたび、令和元年度のクレジット創出者、カーボン・オフセット実施者に、日ごろの思いや活動を発表していただく場として「第8回ブルーカーボンシンポジウム in 横浜」を開催します。

また、本会において国土交通省 国土技術政策総合研究所 海洋環境・危機管理研究室長 岡田知也 様より「ブルーカーボンを含む沿岸域の環境価値の総合評価」について御講演いただきます。

【第8回ブルーカーボン・シンポジウム in 横浜】

※詳しくは別添1（「第8回ブルーカーボンシンポジウム in 横浜」チラシ）を御参照ください。

日時：令和2年1月29日（水） 12時30分から14時45分まで（開場：12時00分）

会場：横浜市開港記念会館 9号室

発表：「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」取組紹介

講演：ブルーカーボンを含む沿岸域の環境価値の総合評価

取材を希望の方は、直接会場にご来場ください。

【横浜ブルーカーボン・オフセット制度 令和元年度の取組（平成31年4月から令和2年1月まで）】

※詳しくは別添2（横浜ブルーカーボン・オフセット制度 令和元年度の取組（平成31年4月から令和2年1月まで））を御参照ください。

（クレジット創出）

- ・申請者数 : 7 [者]
- ・プロジェクト数 : 11 [プロジェクト]
- ・クレジット総量 : 259.6 [t-CO₂]（杉の木^{※5}約3万本分）

（オフセット実施）

- ・申請者数 : 14 [者]
- ・オフセット総量 : 120.3 [t-CO₂]（杉の木約1万4千本分）

（注目すべき点）

- ・ブルーカーボン（アマモ、わかめ、コンブ、アラメ場）のクレジット認証を実施
- ・ブルーカーボンで連携する他自治体からの申請についてクレジット認証を実施
- ・個人による航空機での移動に伴い排出されるCO₂のオフセットを実施

【※1 横浜ブルーカーボンとは？】

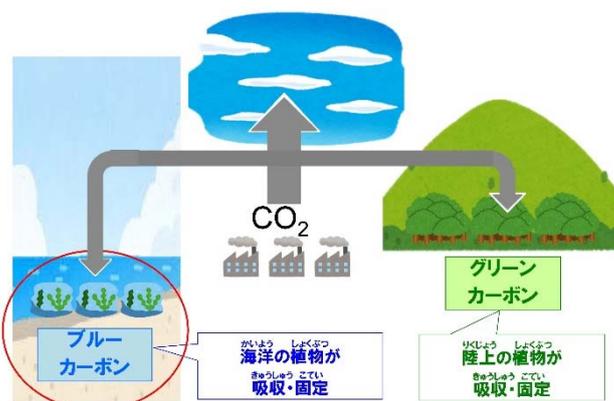
横浜ブルーカーボン事業では、ブルーリソース・ブルーカーボンによる独自のカーボン・オフセット制度の運用や環境教育・啓発活動によって親しみやすい海づくりに市民の関心を集め、市民や団体の豊かな海を守る活動を応援していきます。



横浜ブルーカーボンの3事業領域

【※2 ブルーカーボンとは？】

森林が吸収・固定するCO₂をグリーンカーボンといいます。同様に、海洋生態系が吸収・固定するCO₂をブルーカーボンといいます。



ブルーカーボン、グリーンカーボン

【※3 ブルーリソースとは？】

海を利用した取組による省エネ効果・CO₂排出量削減効果をブルーリソースと呼んでいます。これは横浜市独自の考え方によるものです。

【※4 カーボン・オフセット制度とは？】

CO₂排出量削減の手法のひとつとして、他者のCO₂排出量削減やCO₂吸収・固定の効果を買取り、自らのCO₂排出量と相殺するカーボン・オフセットがあります。カーボン・オフセットには、クレジット申請者には資金面の支援を受けることにより活動が活性化できるメリットがあり、オフセット実施者にはCSR活動として広報を行うことで企業価値が向上するメリットがあります。

横浜ブルーカーボン・オフセット制度では、クレジット申請者が受け取る販売代金の使途を“ブルーカーボン又はブルーリソースによる温暖化対策、環境保全、環境啓発の活動に活用すること”としています。これにより、豊かな海づくり活動のさらなる活性化がもたらされ、オフセット制度による好循環サイクルが形成されています。



オフセット制度による好循環サイクル

【※5 杉の木1本分のCO₂吸収量とは？】

樹齢80年の杉の木1本1年分のCO₂吸収量を8.7 [kg-CO₂/年]として計算しています。

お問合せ先		
温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長	岡崎 修司	Tel 045-671-2636